

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	レジリエンスを育むフィードバックの設計	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	吉田英彰	職名	准教授
所属機関等	盛岡大学		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 佐藤翔輔	東北大学災害科学国際研究所
吉田英彰	盛岡大学
奈田哲也	盛岡大学

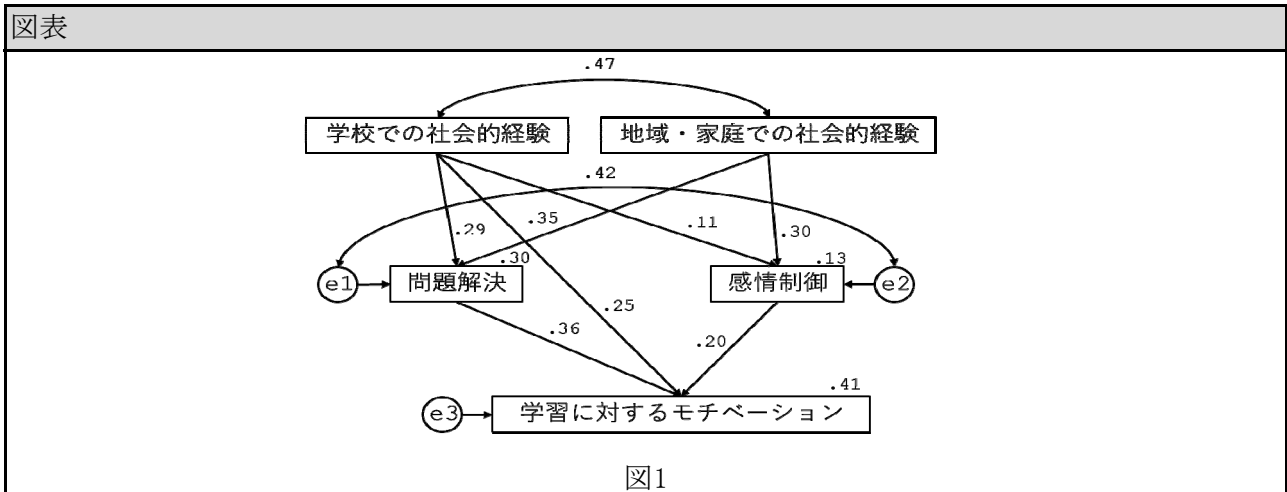
期 間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	
-----	------------------------	-----	--

研究の概要

本研究は、社会的経験が生きる力の発達や学業におけるレジリエンスにどのように関わるのかを明らかにし、適切なフィードバックを行う基礎的な知見を得ることを目的とした。生きる力の発達は、家庭や地域での社会的経験だけでなく、学校での社会的経験が大きく関わっていると考えられる。どのような社会的経験がレジリエンスに影響するのかを明らかにすることにより、レジリエンスを育むフィードバックの在り方を検討する。

研究の具体的な成果・波及効果

2026年2月に、高校生1～3年生707名を対象に質問紙調査を行った。その結果、社会的経験は一概にレジリエンスへ影響するのではなく、学校と地域・家庭という異なる文脈において異なる機能を果たすことが明らかとなった（図1）。特に、学校での社会的経験は学習に対するモチベーションへ直接的に寄与し、地域・家庭での経験は感情制御を通してレジリエンスを支えることが示唆された。これにより、レジリエンス育成には特定のトレーニングに依存するのではなく、日常的な社会的関わりを基盤とした教育的支援が重要であることが示された。今後は、こうした知見を踏まえ、学校内外の経験を接続する指導の在り方への応用が期待される。2026年度は、論文としてまとめ国際誌に投稿する予定である。



2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	大規模災害犠牲者の身元確認および死因究明における死亡時画像診断 (Autopsy imaging: Ai) の活用	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	小林 智哉	職名	助教
所属機関等	東北大学 大学院医学系研究科		

研究組織 (○：災害研担当教員)			
氏名	所属機関名		
○ 千田浩一	東北大学災害科学国際研究所	災害医学研究部門	災害放射線医学分野
○ 稲葉洋平	東北大学災害科学国際研究所	災害医学研究部門	災害放射線医学分野
Yongsu Yoon	Dongseo University		
吉田 昌弘	公益財団法人 筑波メディカルセンター		
金山 秀和	島根大学医学部附属病院	放射線部	
川角 貴哉	島根大学医学部附属病院	放射線部	
小田 まりや	東北大学大学院 医学系研究科		
服部 純聖	東北大学 医学部保健学科	放射線技術科学専攻	
宮島 弘樹	東北大学 医学部保健学科	放射線技術科学専攻	

期間	2025年6月1日 ~ 2026年3月31日	配分額	400,000 円
----	------------------------	-----	-----------

研究の概要
本研究は、大規模災害時の迅速かつ正確な身元確認および死因究明を実現するため、死亡時画像診断 (Autopsy imaging: Ai) の活用を検討するものである。全国の調査や実証的な照合実験、AI技術の応用、災害対応時に有効な撮影プロトコルの整備を通じて、国内におけるDVI (災害時身元確認) 体制の高度化と国際標準化への貢献を目指す。

研究の具体的な成果・波及効果
本研究では、Aiを活用した個人識別および死因究明の高度化に取り組み、頭蓋骨動脈溝 (図1) や副鼻腔、鎖骨などの解剖学的特徴に基づく識別手法の有用性を示した。加えて、死後心臓CTにおいて心臓周囲脂肪のCT値に着目し、心肺蘇生の影響を踏まえた死後変化の定量評価を行った (図2)。さらに、PMCTの地域差に関する分析結果を論文化し、国際学会 (IAFR 2025) において発信することで、日本における死後画像活用の実態と課題を国際的に共有した (下記の成果参照)。これらの成果は、大規模災害時における迅速かつ非侵襲的な身元確認および死因推定の高度化に資するものであり、教育・研究を通じた専門人材の育成および技術の標準化・普及にも寄与する重要な波及効果を有する。

図表

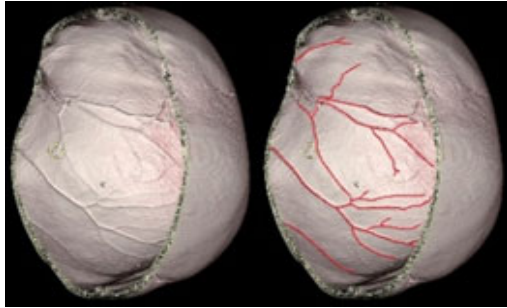


図1：死後CTの動脈溝（頭蓋骨）を用いた個人識別能の評価
これまででない個人識別方法として、動脈溝（赤線）の有効性が示された。

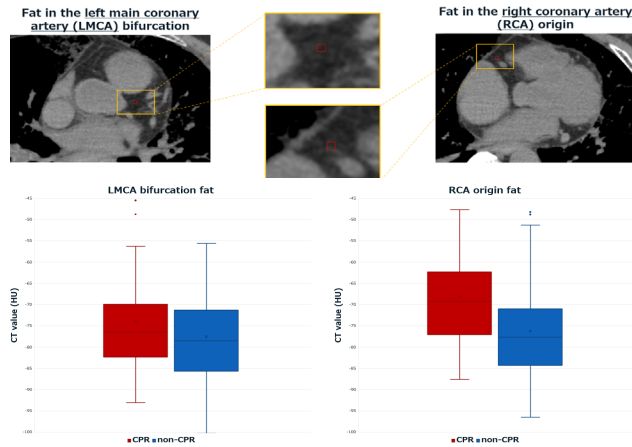


図2：死後CTの心臓周囲脂肪のCT値解析
虚血性心疾患で注目されている心臓周囲脂肪に着目し、右冠状動脈（RCA）周囲脂肪（グラフ右）において有意に心肺蘇生術（CPR）の影響を受ける。

成果として発表した論文

Kobayashi T, et al. Disparities in Utilization of Postmortem CT Across Japan's 47 Prefectures: Associations with Regional Population and Medicolegal Autopsy Rate. Forensic Science International (査読中)

小林智哉. IAFR/SORSA 2025 学会参加報告. Rad Fan 2026, 24(3), 40-43. (査読なし)

学術論文 合計（ 2 ）編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催、発表

開催年月日	2025/9/5	開催都市	南アフリカ・ケープタウン
イベント名称	IAFR 2025	主催者	IAFR
実施概要	日本の死後CTを用いた個人識別の現状を報告した（論文投稿中）。指導学生（共同研究者）が死後心臓CTを用いた解析について発表し、Best Student Presentationを受賞した。（2演題）		
開催年月日	2025/9/27	開催都市	愛媛県松山市
イベント名称	第28回法画像勉強会	主催者	日本法医学画像研究会
実施概要	共同研究者がワークステーションを用いた肋骨洞、鎖骨、頭蓋骨（動脈溝）による個人識別をそれぞれ発表し、死後CTによる識別能の高さを報告した。（3演題）		
開催年月日	2025/12/18	開催都市	千葉県千葉市
イベント名称	第2回千葉県 死後画像研究会	主催者	千葉県死後画像研究会
実施概要	特別講演として、診療放射線技師による研究会運営などを介した個人識別の関りを紹介した。千葉県警察医師会、警察幹部も参加し、県内で個人識別に画像検査を活用していく方針が確認された。		
開催年月日	2026/1/31	開催都市	茨城県つくば市
イベント名称	第15回茨城Ai研究会	主催者	茨城Ai研究会
実施概要	特別講演として、診療放射線技師による個人識別のAIを含めた研究を紹介した。茨城県では、すでに個人識別に死後画像を活用しており、今後は生前画像との突合をワークステーションを用いて行う方法を推進していく方針が示された。		

合計（ 4 ）件

国際交流			
実施年月日	2025/8/26-28	相手方機関	Dongseo of University
交流活動の名称	日韓死後画像交流会・韓国科捜研訪問		
学術交流・打合せ	Dongseo Universityを訪問し、日韓の個人識別の研究活動を共有した。今後もデータ共有により、共同研究を促進していく方針が示された。また、韓国の科捜研を訪問し、韓国の個人識別の現状を調査した。		
実施年月日	2025/9/5-7	相手方機関	IAFR
交流活動の名称	IAFR2025 学術交流		
学術交流・打合せ	南アフリカ、イギリス、アメリカ、オランダの法医学に携わる放射線技師と交流し、実状の情報共有を行った。今後、日本の学会（JSAiT）とMOUを締結する運びとなった。		

合計（ 2 ）件

2025年度 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

研究課題名	VRとGISを活用した津波避難行動における認知プロセスに関する研究	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	塩崎大輔	職名	准教授
所属機関等	星槎道都大学		

研究組織（○：災害研担当教員）	
氏名	所属機関名
○ 杉浦元亮	東北大学
橋本雄一	北海道大学
三浦直樹	東北工業大学
榊浩平	東北大学
竹本 あゆみ	東北大学

期 間	2025年6月1日 ～ 2026年3月31日	配分額	330,000 円
-----	------------------------	-----	-----------

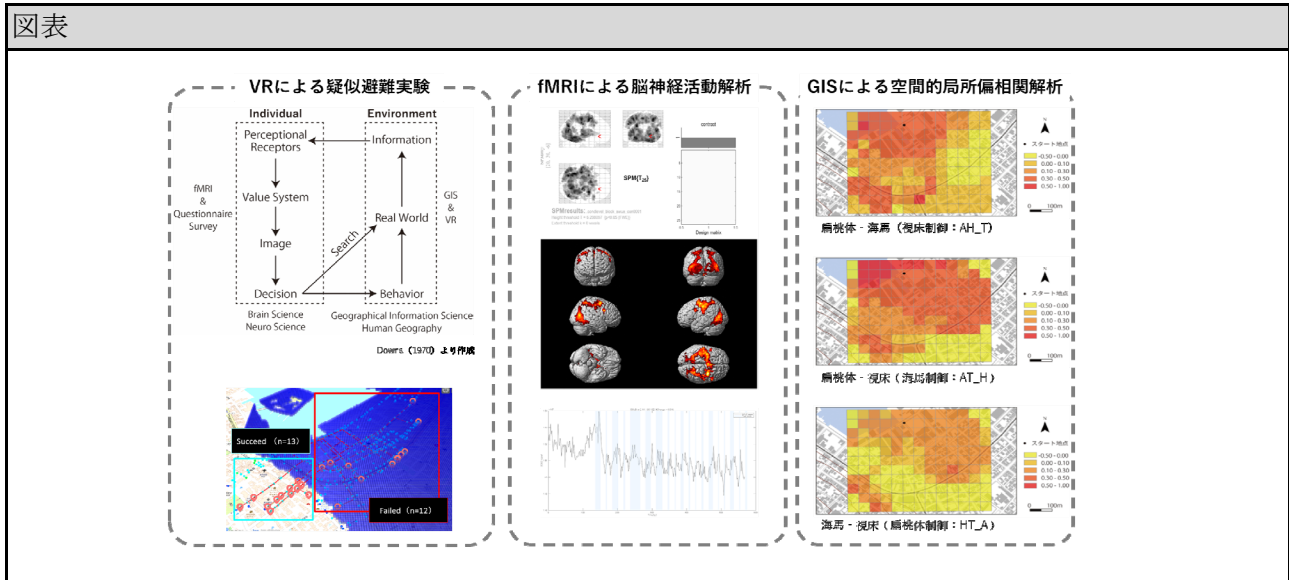
研究の概要

本研究は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による巨大津波災害に注目し、VR津波避難訓練システム及びfMRIを活用し、避難行動時の脳活動を測定することで、避難成否と脳活動との関係を解析し、また地理情報システム（GIS）を用いて災害関連地理空間情報と合わせて、避難と脳活動の関係を空間的に分析することを目的とする。

研究の具体的な成果・波及効果

これまでに延べ26名を対象とした疑似避難実験を行い、疑似避難中の脳神経活動解析を行った。その結果、避難成功者と失敗者の間で、右運動野や右前頭前野等における活動の差異が観測された。また、空間的局所相関分析では、扁桃体・海馬・視床の統合的活動が、柔軟かつ適応的な避難行動に影響することが示唆された。

本研究が導入した空間統計的アプローチは、避難の成否に対応する空間局所的な依存構造を定量的に可視化する革新的手法である。これにより、災害時の避難意思決定を支える神経基盤を実証的に捉える枠組みを提示し、災害レジリエンス研究の発展に資するだけでなく、行動特性に即した防災リテラシー向上への貢献が期待される。



成果として発表した論文
塩崎大輔・橋本雄一，WebVR技術とGISを用いたVR疑似避難訓練システムの開発と利活用事例，ヒューマンインターフェース学会誌特集「安全な暮らしを支えるインターフェース」，2026，28-1：pp8-13（査読無）
塩崎大輔・橋本雄一・三浦直樹・榎浩平・白濱幸弘・杉浦元亮，VRとfMRIを用いた津波疑似避難に関する行動分析，情報処理学会情報システムと社会環境研究会研究報告，2025，IS-173(2)：pp1-5（査読無）
橋本雄一・塩崎大輔・三浦直樹・榎浩平・白濱幸弘・杉浦元亮，災害時避難の意思決定を理解するためのGISと脳神経科学の統合（Ⅰ）－VR空間上での津波避難の事例－，地理情報システム学会学術研究発表大会予稿集，2025，34：D7-01（プレプリント）
塩崎大輔・橋本雄一・三浦直樹・榎浩平・白濱幸弘・杉浦元亮，災害時避難の意思決定を理解するためのGISと脳神経科学の統合（Ⅱ）－VR及びfMRIを用いた避難行動中の脳活動に関する空間分析－，地理情報システム学会学術研究発表大会予稿集，2025，34：D7-02（プレプリント）

学術論文 合計（ 4 ）編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催、発表			
開催年月日	2026/9/4	開催都市	北広島市
イベント名称	講演会 「人の心から学ぶ防災・減災」	主催者	大曲東小学校
実施概要	小学5・6年生を対象として，認知科学を題材とした災害時避難に関する講演を実施し，防災リテラシー向上に貢献		
開催年月日	2025/11/4	開催都市	北広島市
イベント名称	講演会 「人の心から学ぶ防災・減災を考える」	主催者	大曲プロジェクト・大曲中学校区PTA
実施概要	北広島市大曲中学校区地域住民を対象とし，認知科学を題材とした災害時避難に関する講演を実施し，地域防災リテラシー向上に貢献		

合計（ 2 ）件

2025 Disaster Resilience Co-Creation Research Project

Research Title	Preservation and Dissemination of Diverse Disaster Narratives through Kamishibai	Research Topic	2-HR
Name	Julia Gerster	Job Title	
Affiliation	IRIDeS, Tohoku University	Associate Professor	

Research members (Select "○" for faculty member in charge at IRIDeS)	
Name	Affiliation
○ Julia Gerster	IRIDeS, Tohoku University
Kaoru Ueda	Stanford University, Hoover Institution Library & Archives.

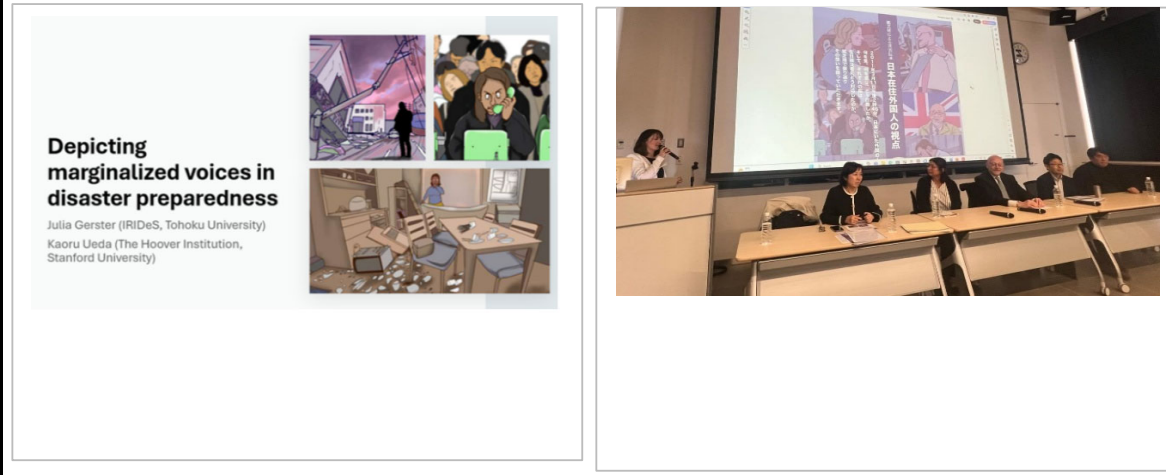
Research Period	June 1, 2025 to March 31, 2026	Budget Amount	400,000
-----------------	--------------------------------	---------------	---------

(JPY)

Brief Description of Research Outline
<p>This research project aims to explore the potential of kamishibai (Japanese paper theater) as a culturally resonant medium for promoting inclusive disaster preparedness and disaster memory transmission. Through interviews, audience surveys, and interdisciplinary analysis, this research contributes to inclusive disaster education by centering underrepresented voices and exploring the intersection of narrative, memory, and preparedness. The project aims to offer practical and theoretical insights for both academic and policy-oriented discussions on diversity in disaster risk reduction. Specifically, the project has four key aims: first, to investigate the possibilities of kamishibai in disaster education; second, to assess how kamishibai can raise risk awareness among foreign residents in Japan; third, to examine how these performances foster recognition of diverse needs in disaster preparedness and response among wider audiences; and fourth, to investigate the emotional and psychological effects of performance on kamishibai storytellers who have experienced disaster. By promoting intercultural dialogue and mental health resilience through creative storytelling, we hope to deepen understanding of disaster memory and enhance community-based disaster education frameworks. While 1) and 4) have been analyzed during the previous years, due to unforeseen illness 2) and 3) are yet to be investigated in this coming year.</p>

Concrete outcomes and social impacts of this research
<p>The previous two years of research focused on developing and performing 2 kamishibai based on interviews with non-Japanese disaster survivors, and analyzing the historical background of kamishibai and its key features that make it a suitable disaster education tool. Further, we conducted interviews with kamishibai performers to learn about their incentives for the performances and how their mental health changed through engaging in kamishibai creation and performance. The findings have been summarized and submitted to two peer-reviewed journals, where they are currently under review (see below). In addition, findings have been presented at the following conferences: JAWS, AIWEST, and Digital Research, and Life Narratives in Urban and Rural Japan. Another presentation has been accepted at the 2026 EAJS conference in Poland. The former versions of the international kamishibai have been revised and reprinted. Regarding the social impacts, kamishibai copies have been distributed as learning material to the Kadonowaki Elementary School disaster heritage site and Foreign Resident Disaster Mitigation Leader Training Programs. The project included the translation of 50 disaster kamishibai from Japanese into English and their long-term preservation through archiving at the Hoover Institution at Stanford University.</p>

Figure



Publications

Gerster, Julia and Ueda, Kaoru. Kamishibai and the Making of Disaster Memory: Historical and Anthropological Perspectives. Submitted to *Asian Anthropologist* (Under Review)

Gerster, Julia and Ueda, Kaoru. Coping with Trauma Through Storytelling: Insights from Disaster Kamishibai. Submitted to *Memory Studies* (Under Review)

Julia Gerster and Kaoru Ueda: "We Were Here Too! Conveying Diverse Disaster Experiences through Japanese Paper Theater (Kamishibai)", AIWEST, UCL, London, August 21, 2025.

Julia Gerster and Kaoru Ueda: "Coping with Trauma. Through Storytelling: Insights from Disaster Kamishibai", Japan Anthropology Workshop, Hyogo University, April 4, 2025.

Gerster, Julia and Kaoru Ueda; Depicting marginalized voices in disaster preparedness, Visuals, Digital research, and Life Narratives in Urban and Rural Japan, Sophia University, Tokyo, November 14, 2025

Gerster, Julia 「災害伝承と多様性」, 東日本大震災から15年とこれからのBosai, March 21, Tokyo

Total Publications (6)

Symposium, Seminars and Workshops related to this study.

Event Date	2025/2/10	Host City	Sendai
Conference Name	Conveying Disasters Through Pictures: Picture Books, Kamishibai, and Manga Media Power for Communicating Disasters Research Workshop		
Organizers	Liz Maly, Julia Gerster, Ryo Saito, Naomi Chiba		
Overview	Discussion of overlaps in visual disaster education for children and adults. Julia Gerster presented the research outline and Kaoru Ueda served as an overall commentator.		

Total events: (1)

Direct contribution to the affected area, or possible affected area (Inside, and outside of Japan)			
Date	2025/9/1	Field of Activity	Ishinomaki City
Activity Name	Handed over Kamishibai Prints to the Disaster Heritage Site Kadonowaki Elementary School		
Overview	Museum Staff use the Kamishibai in disaster education events		
Date	2025/9/1	Field of Activity	Sendai City
Activity Name	Handed over Kamishibai copy to Disaster Mitigation Leaders (SenTIA)		
Overview	Kamishibai is used in educational activities		

Total contribution: (2)

International Activities (Not necessary if you described already in the previous sections)			
Date	2025/2/10	Partner Institution	IRIDeS-Stanford University
Activity Name	Conveying Disasters Through Pictures: Picture Books, Kamishibai, and Manga Media Power for Communicating Disasters Research Workshop		
Workshops	Main organizer: Liz Maly. Discussion of overlaps in visual disaster education for children and adults. Julia Gerster presented the research outline and Kaoru Ueda served as an overall commentator.		

Total activities:(1)

2025 Disaster Resilience Co-Creation Research Project

Research Title	Conveying difficult pasts: learning from similarities in storytelling between Tōhoku disaster and WWII experiences in Japan	Research Topic	2-HR
Name	Kaori Yoshida	Job Title	
Affiliation	Ritsumeikan Asia Pacific University, College of Asia Pacific Studies	Professor	

Research members (Select "○" for faculty member in charge at IRIDeS)	
Name	Affiliation
○ Julia Gerster	IRIDeS, Tohoku University
Kaori Yoshida	Ritsumeikan Asia Pacific University, College of Asia Pacific Studies
Huong T. Huong	Ritsumeikan Asia Pacific University, College of Sustainability and Tourism

Research Period	June 1, 2025 to March 31, 2026	Budget Amount	350,000
-----------------	--------------------------------	---------------	---------

(JPY)

Brief Description of Research Outline
<p>Difficult pasts – traumatic experiences of natural/human disasters – negatively impact individuals and groups. It is critical to understand these pasts in the present context, by means that speak to the current generation. Our previous research on disaster tourism and peace tourism have identified similarities in ways that disasters and wars are narrated in Japan. This project investigates how experiences of WWII and Great East Japan Earthquake have been talked about and remembered in Japan, by examining different forms of storytelling and their effects. The data from interviews and surveys with storytellers and visitors at memorial sites will be analyzed.</p>

Concrete outcomes and social impacts of this research
<p>The research team investigated practices of different forms of disaster storytelling (production and delivery) of kataribe storytellers and tour guides related to the 3.11. Tōhoku disaster and WWII experiences, especially in Hiroshima. Interviews focused on storytellers, including disaster kamishibai producers and performers, as well as tour guides in Okunoshima (Rabbit Island in Hiroshima). Initial findings were discussed and presented at a symposium held on October 31-Nov. 1 at APU on Difficult pasts and Memory transmission commemorating the 80th year after the end of WWII. The symposium reached a large variety of a domestic and international audience, with a high student participation. Presentations of scholars on both war and disaster related memories created new discussions on similar challenges in both fields, with scholars and students raising interest in following new research approaches to address these challenges. The research team is currently analyzing results from interviews and participant observation at tours related to negative heritage and planning on a special issue in these topics. We believe that the newly raised discussion and the planned publications will contribute to a more sustainable memory culture regarding difficult pasts.</p>

Figure



Poster Presentation Session of Graduate Students (left); the Opening Speech of APU President Yoneyama at the "80th anniversary of WWII Event: Creative and Aesthetic Representations of War



Kamishibai performance at the abovementioned event (left); Talk session between young

Publications

Gerster, J.: "From War to Disaster: rethinking Gender and resilience in Japan's Memorial Spaces" July 17, 2025, Memory Studies Conference, Charles University, Prague, (July, 14-18, 2026)

Gerster, J.: "Recycling Nuclear Narratives in Contemporary Japan", EAJS, Tohoku University, September 21, 2025 (September 20-21, 2025)

Gerster, J.: Teaching the "never again": Gender representations at peace and disaster memorial museums in Japan. December 20, 2025, ACC Conference, IRIDeS, Tohoku University (December 20-21, 2025)

Yoshida, K.: "Pink rabbits as the 'owner' of Hiroshima memories: retelling and redressing victim narratives through toxic cute tourism" June 25, 2025. The 9th Annual Hasekura International Symposium: Possession and Dispossession, University of British Columbia (June 24-25, 2025)

Yoshida, K.: "Muddling the gendered discourse of war narrative: A critical reading of the haunting 'other women within' through Mizuki's war-themed manga" September 21, 2025, EAJS, Tohoku University (September 20-21, 2025)

Yoshida, K.: "Complexities in Hiroshima Paradox: Another Hiroshima - Case of Okunoshima Island" December 21, 2025, Counter-memory study workshop, Doshisha University.

Yoshida, Kaori, Bui, T. Houhg, Usui Rie: "Detoxifying Chemical Warfare on Touristic Rabbit Island: Questions on Japanese Reactionary War Ecology and Memory", War and Society (Special Issue), (forthcoming in 2026)

Total Publications (1), Oral presentations (6)

Symposium, Seminars and Workshops related to this study.			
Event Date	2025/10/31-2025/11/1	Host City	Beppu
Conference Name	Creative and Aesthetic Representations of War Memories in Japan and Beyond (interactive workshop & symposium)		
Organizers	Kaori Yoshida, Huong Bui, Julia Gerster		
Overview	<p>Educational institutions are at the forefront of humanity's mission to explore creative ways to educate the younger generations on historical tragedies, promoting peace through freedom of expression. On the occasion of the 80th anniversary of the end of WWII in Europe and the Pacific War in Asia, it is timely to look into 'how previous wars have been talked about and remembered,' and discuss future directions. This event has successfully bridged gaps existing among experienced educators/historians and young students; between academia and industry, and between Japanese and international researchers.</p>		
Event Date	2025/11/28	Host City	Bepu
Conference Name	Book-writing workshop on war memories and tourism in Japan at APU		
Organizers	Kaori Yoshida, Huong Bui at APU		
Overview	<p>Format: hybrid (in person & online participation) This book writing workshop lasted about 2 hours with a very heated discussion on the proposition for the book project. 12 participants – both faculty and graduate students (PhD and Master's) – gathered from different parts of the world and various cultural/national backgrounds (North America, Mexico, Europe, different parts of Asia), to discuss the book project proposal on war memories and tourism in Japan. This project derived from the symposium of the 80th anniversary of WWII held at APU on Nov. 1, aiming to better understand difficult histories in the present context with the question of 'How the previous war has been talked about and remembered.'</p> <p>We reached the unanimous agreement on the book title that reflects our objectives, 'Curating of Japanese War Memory.' The book will attract a wide range of readership, as it provides a site for developing communication to bridge between academic and public communities to understand how memories of the past connect to the present and future across the globe, examining empirical data at each target site, along with theoretically established investigation. The outcome is expected to lead to a proposal submission to the chosen journal editor.</p>		

Total events: (2)

International Activities (Not necessary if you described already in the previous sections)			
Date	2025/10/31-2025/11/1	Partner Institution	TU Dortmund, APU
Activity Name	80 years since the end of World War 2 Symposium		
Workshops	International Symposium discussing memory transmission after traumatic events, including wars and natural hazard disasters.		
Date	8/3-6/2025	Partner Institution	APU
Activity Name	Fieldwork in Okunoshima and Hiroshima		
Fieldwork	Fieldwork on Rabbit Island to compare new tourism approaches with kataribe storytellers trying to preserve WW2 legacy with Okunoshima being used as a poison gas production field, representing a counter memory on Hiroshima City's peace tourism. In Hiroshima, participant observation regarding the memorial activities as well as data collection at heritage sites were conducted. Participants: Yoshida, Bui, Gerster.		

Total activities:(2)

2025 Disaster Resilience Co-Creation Research Project

Research Title	The Disaster Picture Book Project—international comparative analysis of disaster picture book narratives and practical applications for disaster risk reduction	Research Topic	2-HR
Name	Elizabeth Maly	Job Title	
Affiliation	IRIDeS	Professor	

Research members (Select "○" for faculty member in charge at IRIDeS)	
Name	Affiliation
○ Elizabeth Maly	IRIDeS
Ryo Saito	Graduate School of Information Sciences/IRIDeS (Concurrent positions arranged)
Julia Gerster	IRIDeS
Naomi Chiba	IRIDeS
Dan Abramson	University of Washington
Mayumi Willgerodt	University of Washington

Research Period	June 1, 2025 to March 31, 2026	Budget Amount	400,000 (JPY)
-----------------	--------------------------------	---------------	------------------

Brief Description of Research Outline
<p>1) Expand analysis factors of local contexts (hazards, disaster culture, psycho-social) for how narratives (text and images) convey stories of disaster, to identify and compare messages in Japanese and English disaster picture books.</p> <p>2) Create 2 original bilingual (Japanese and English) disaster picture books to convey experience and lessons of 3.11.</p> <p>3) Develop practical applications of disaster picture books as part of disaster education and to raise awareness of hazard risk in Sendai, Japan, and coastal Washington, U.S.</p> <p>4) Expanded previous research on English and Japanese disaster picture books and develop the online Picture Book Database: https://disasterpicturebooks.com/</p>

Concrete outcomes and social impacts of this research
<p>Building on previous years' research, this year's research outcomes included an expanded exploration of factors that shape visual and textual narratives in 3.11 picture books. Through workshops and research meetings with international and Japanese colleagues and experts, this project continued to explore the potential of disaster picture books as one type of media to share disaster experience and contribute to disaster risk reduction. This year's significant outcome was the publishing of 2 original bilingual picture books, created by the research team (Figure 1). Going forward, these two books have the potential to share the local experiences and knowledge to future generations.</p>

Figure



Figure 1: The 2 bilingual picture books published this year.

Publications

Chiba, N. ローリエは潮風に乗って：東日本大震災の記録。Bay leaves carried on the sea breeze: A memory of the Great East Japan earthquake. 仙台：東北大学災害科学国際研究所。2026.
Download: <https://disasterpicturebooks.com/bay-leaves/>

Maly L, Satachi R. うみあおいまつみどいすなはましろめぐるいのち。Blue Sea, Green Pines, White Sand Beach, Cycle of Life. 仙台：東北大学災害科学国際研究所。2026.

Total Publications (2)

Symposium, Seminars and Workshops related to this study.

Event Date	2026/2/10	Host City	Sendai
Conference Name	絵本・紙芝居・漫画：災害を伝えるメディアの力第一回研究ワークショップ		
Organizers	Maly, E, Gerster, J., Saito, R.、IRIDeS.		
Overview	様々なメディアについての短いプレゼンテーションの後、参加者は災害リスク軽減におけるこれらのメディアの可能性について議論しました。		
Event Date	2026/2/10	Host City	Sendai
Conference Name	災害を伝えるメディアの力第一回研究ワークショップ		
Organizers	Maly, E, Gerster, J., Saito, R.、IRIDeS.		
Overview	E. Maly presented "The Disaster Picture Book Project" during 災害を伝えるメディアの力第一回研究ワークショップ		
Event Date	2026/2/10	Host City	Sendai
Conference Name	International Workshop on Disaster Education		
Organizers	Gerster, J., IRIDeS		
Overview	E. Maly presented "The Disaster Picture Book Project" during the international Workshop on Disaster Education at IRIDeS.		
Event Date	2026/6/18	Host City	Sendai
Conference Name	Natural Hazards Workshop, Researchers Meeting		
Organizers	Natural Hazards Workshop, University of Colorado		
Overview	E. Maly will present "Picturing Nuclear and Tsunami Disasters: Narrative Images in 3.11 Disaster Picture Books" at the Reserachers Meeting following the Natural Hazards Workshop, Boulder Colorado.		

Total events: (4)

Direct contribution to the affected area, or possible affected area (Inside, and outside of Japan)			
Date	2026/3/11	Field of Activity	Matsushima City
Activity Name	Creation of a picture book sharing the story of "Kenta's Farm of Life" in Matsushima		
Overview	This picture book, in Japanese and English, was published on March 11, 2026. Inspired by "Kenta's Farm of Life" in Matsushima, it tells the story of Yoshimi, a little girl who visits there, after knowing about the Bay leaves.		
Date	2026/3/11	Field of Activity	Sendai City
Activity Name	Creation of a picture book sharing the history and experience of Shinhama, Sendai.		
Overview	This picture book, in Japanese and English, was published on March 11, 2026. Inspired by "Kenta's Farm of Life" in Matsushima, it tells the story of Yoshimi, a little girl who visits there, after knowing about the Bay leaves.		

Total contribution: (2)

International Activities (Not necessary if you described already in the previous sections)			
Date	2025/9/16	Partner Institution	National Taiwan University
Activity Name	International Research Meeting		
Exchange of Knowledge, Meetings	International research meeting with researchers from National Taiwan University, about methods of sharing disaster information and knowledge, including picture books, and future collaboration.		

Total activities:(1)

2025 Disaster Resilience Co-Creation Research Project

Research Title	Rooted placemaking to support long-term housing and community recovery after large disasters in Japan, Indonesia, and Thailand	Research Topic	2-HR
Name	Tamiyo Kondo	Job Title	
Affiliation	Research Center for Urban Safety and Security, Kobe University	Professor	

Research members (Select "○" for faculty member in charge at IRIDeS)	
Name	Affiliation
Tamiyo Kondo	Research Center for Urban Safety and Security, Kobe University
○ Elizabeth Maly	IRIDeS
Ardya Nareswari	Faculty of Architecture, Gadjah Mada University, Indonesia
Titaya Sararit	Faculty of Architecture, Chiang Mai University, Thailand

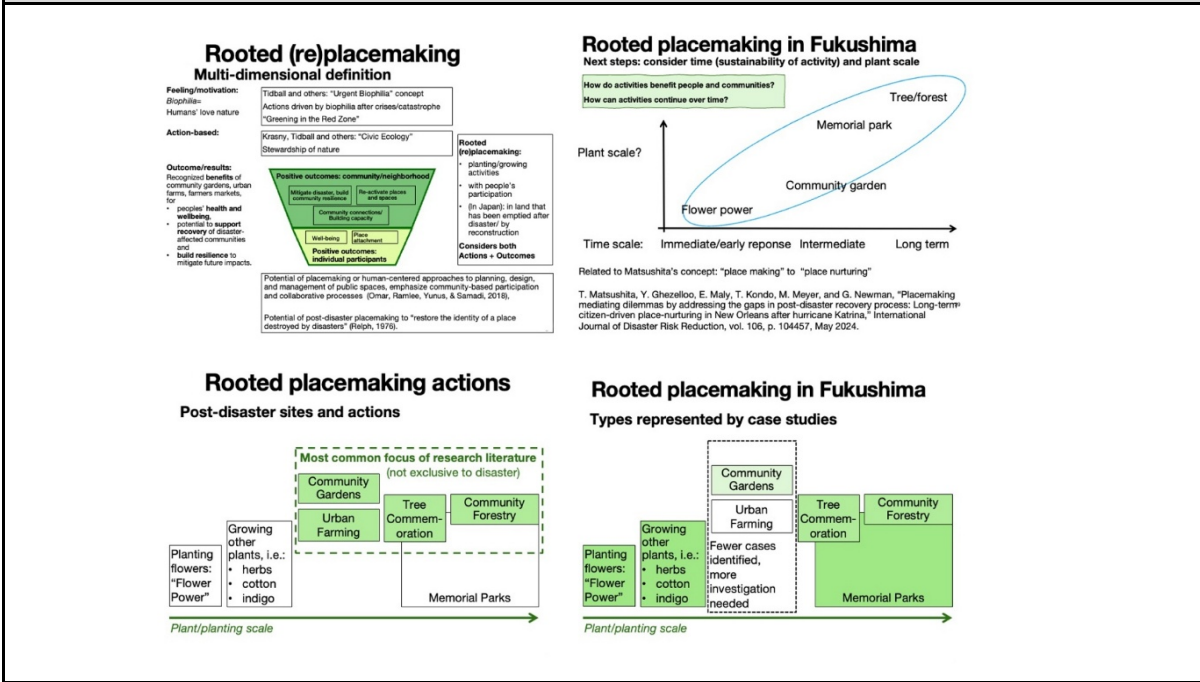
Research Period	June 1, 2025 to March 31, 2026	Budget Amount	300,000
-----------------	--------------------------------	---------------	---------

(JPY)

Brief Description of Research Outline
<p>This research investigates roles of rooted placemaking in support of long-term community recovery after disasters: the 1995 Great Hanshin Awaji Earthquake and 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami in Japan; 2006 Central Java Earthquake and 2010 volcanic eruption of Mt. Merapi in Indonesia, and 2004 Indian Ocean Tsunami in Thailand. Defined as 1) various actions of planting, growing, and ecological and food stewardship, 2) with community participation, this research conducted international comparative analysis of rooted placemaking to clarify effective networks/mechanisms used in the 3 countries, and contributions of rooted placemaking to community resilience across the recovery process.</p>

Concrete outcomes and social impacts of this research
<p>This year's research continued the exploration and application of the concept of post-disaster "green or rooted placemaking." Within Japan, the research focused on the situation in the Hamadori region of Fukushima, including the potential for developing stronger international research networks for practical green placemaking research in support of disaster-affected areas. Internationally, in collaboration with research team members from Thailand and Indonesia, as well as colleagues from the U.S., Taiwan, and Singapore, the shared concept of green placemaking was further developed in the context of additional international cases of post-disaster recovery. International exchange, workshops, and discussions have led to ongoing collaboration and development, including the goal for developing joint publications.</p>

Figure



Publications

Nareswari A., Maly, E. Spatial transformation of post-resettlement housing after the 2010 Merapi Eruption: Physical and socio-economic long-term impacts on residents' living environments (manuscript draft under preparation for submission to IJDRR)

Total Publications (1)

Symposium, Seminars and Workshops related to this study.			
Event Date	2025/5/16	Host City	Kobe
Conference Name	6th Asian Conference for Disaster Risk Reduction, Kobe Japan		
Organizers	ACURD		
Overview	E. Maly, T. Kondo, T. Matsushita share research findings in a poster presentation entitled "Green Placemaking for Disaster Resilience: Typological Analysis of Cases in Japan and the U.S."		
Event Date	2025/10/28	Host City	Sendai
Conference Name	"Disaster X PLACE" Workshop at IRIDeS, TU		
Organizers	Kondo, T, Maly, E. IRIDeS.		
Overview	E. Maly gave a research presentation "Green placemaking Rooted placemakingGreen (re) placemaking" at "Disaster X PLACE" Workshop at IRIDeS, TU		
Event Date	2025/12/12	Host City	Singapore
Conference Name	Pacific Rim Community Design Network Conference 2025		
Organizers	National University of Singapore (NUS)		
Overview	E. Maly gave a research presentation "Community Enhancement in the Population Shrinking Community: Shinhama, Japan" during a roundtable session at this this international conference of the Pacific Rim Community Design Network.		
Event Date	2025/12/13	Host City	Singapore
Conference Name	Pacific Rim Community Design Network Conference 2025		
Organizers	National University of Singapore (NUS)		
Overview	E. Maly presented the paper "Digging in the Nuclear Zone: Rooted Placemaking in Fukushima" at this international conference of the Pacific Rim Community Design Network.		
Event Date	2025/12/13	Host City	Singapore
Conference Name	Pacific Rim Community Design Network Conference 2025		
Organizers	National University of Singapore (NUS)		
Overview	E. Maly gave a research presentation "Vulnerabilities and Precarity: Rethinking Rural Development and Tourism Possibilities" during a roundtable session at this this international conference of the Pacific Rim Community Design Network.		
Event Date	2026/02/2-2025/2/4	Host City	Sendai, Okuma, Namie, Naraha
Conference Name	International Field Study and Workshop on Green Placemaking in Fukushima		
Organizers	Maly, E, IRIDeS		
Overview	This International Field Study and Workshop brought together 10 scholars engaged in research and practices of place-making, including marginalized people and disaster-affected communities.		

Total events: (6)

International Activities (Not necessary if you described already in the previous sections)			
Date	2025/9/18	Partner Institution	Gadjah Mada University, IRIDeS
Activity Name	Online research meeting, Indonesia		
Fieldwork	Research meeting with Dr. Nareswari and E. Maly to discuss joint research on: "Spatial transformation of post-resettlement housing after the 2010 Merapi Eruption:Physical and socio-economic long-term impacts on residents' living environments."		
Date	2025/10/28	Partner Institution	North Texas University, Kobe University, IRIDeS, Fukushima University
Activity Name	Research Meeting in Tohoku		
Exchange of Knowledge, Meetings	Reflection on field visit and research meetings with Dr. Elyse Zavar, Assoc. Prof. Tomoko Matsushita, Prof. Tamiyo Kondo, and Assoc. Prof. Elizabeth on in "Disaster X PLACE" Workshop at IRIDeS, TU		
Date	2025/12/15-2025/12/17	Partner Institution	Chiang Mai University, Kobe University, IRIDeS,
Activity Name	Site survey and research meetings in Thailand		
Fieldwork	Site visit and research meetings with Dr. Titaya Sararit, Prof. Tamiyo Kondo, and Assoc. Prof. Elizabeth Maly in Phangna region of Thailand, survey of long-term housing and community recovery after the 2004 Indian Ocean Tsunami.		
Date	2026/2/3	Partner Institution	Chiang Mai University, Gadjah Mada University, National Taiwan University, National University of Singapore, University of Tokyo, Fukushima University, Kobe University, IRIDeS.
Activity Name	International Field Study on Green Placemaking		
Fieldwork	During the Field Study on Feb. 3, we visited several places in Fukushima's Hamadori (coastal region) impacted by the 3.11 disasters, and talked with local residents and stakeholders involved in various place-making projects.		
Date	2026/2/4	Partner Institution	Chiang Mai University, Gadjah Mada University, National Taiwan University, National University of Singapore, University of Tokyo, Fukushima University, Kobe University, IRIDeS.
Activity Name	International Workshop on Green Placemaking		
Workshops	Chiang Mai University, Gadjah Mada University, National Taiwan University, National University of Singapore, University of Tokyo, Fukushima University, Kobe University, IRIDeS.		
Date	2026/2/5	Partner Institution	Chiang Mai University, IRIDeS
Activity Name	Site visit and research meeting		
Exchange of Knowledge, Meetings	Site visit and field work in Miyagi with Dr. Sararit and E. Maly, to discuss Thai/Japan comparisons of disaster memorialization spaces.		
Date	2026/2/6	Partner Institution	Gadjah Mada University, Kobe U.
Activity Name	Research Meeting		
Exchange of Knowledge, Meetings	Research meeting with Dr. Nareswari and Prof. Kondo about long term recovery in Kobe and Indonesia		

Total activities:(7)